



理念

- 一、脳神経外科としての専門性を軸に幅広い診療体制で地域医療に貢献します
- 一、急性期医療の中核病院として、高機能で質の高いチーム医療を行います

Index;

ご挨拶	1
病院概要	2
設備機器状況	3
職員配置	4
主な施設基準	5
診療統計	6
DPC新係数(県内 第2位)	7
医療秘書	8
勤務状況(オフはリフレッシュ)	9
当院医師からのメッセージ	10



Doctor Recruitment Guidance

1 ご挨拶



医療法人 光臨会
理事長 荒木 攻

当院は昭和61年7月に広島市西部地区における唯一の脳神経外科専門病院として開院しました。

24時間救急応需体制のもと、年間1,500件以上の救急車受け入れをこなし地域の皆様に大きな安心をお届けして参りました。

私はそもそも24年前、1,200床を超える巨大病院であり超急性期を取り扱う倉敷中央病院で多くの患者さまとの診療を重ねているうち「患者様と最初から最後まで接するトータルな医療がしたい」との思いから開設に踏み切りました。

最終的に私共ができる地域貢献は、脳卒中の救急医療を中心に展開し、地域に密着した病院として脳血管疾患を中心とした脳神経外科全般を扱うことだという結論に達しました。



当院は急性期の脳卒中治療の必要な救急から回復期、維持期(在宅)医療まで網羅し、脳卒中治療をひとつの医療機関で完結できる高い医療機能を有しております。

平成21年4月にはDPC対象病院として認められ、同時に電子カルテを導入し安全で安心な質の高い医療の提供を継続・維持しております。



当院に少しでもご興味を持たれ、一緒に脳卒中医療を志される先生であれば、診療科を問わず広く募集しております。

地域医療に是非ともお力添え下さい。

2 病院概要

◆診療科

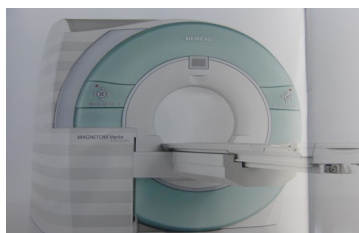
脳神経外科・神経内科・外科
循環器内科・消化器内科
形成外科・リハビリテーション科

◆許可病床 110床

急性期病棟 58床 (開放病床 5床含む)
亜急性期病棟 10床
回復期リハビリテーション病棟 42床

◆指定状況

日本脳神経外科学会専門医認定
広島大学脳神経外科研修プログラム参加施設
東京女子医科大学脳神経外科研修プログラム参加施設
大阪医科大学脳神経外科研修プログラム参加施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
協力型臨床研修病院
日本医療機能評価機構認定病院 (Ver5.0)



3.0 テスラ MRI
平成23年3月導入決定
救急医療機器整備事業(国土交通省)

進化し続ける高度先進医療技術(機器)を、少しでも地域に活かしたい。
高度な診断・検査機能の提供を目指しております。



医師控室
医療秘書が診療のお手伝いをさせていただきます。

3 設備機器状況

◆検査機器等

3.0テスラ MRI (平成23年3月導入決定)

1.5テスラ MRI
16列 マルチスライスCT
DSA装置

(以上、シーメンス社製)

マイクロサージャリー用顕微鏡
定位脳手術装置

超音波診断装置 胃大腸電子内視鏡
気管支ファイバースコープ

脳波計 脳誘発電位装置 重心動揺計
高気圧酸素治療装置

◆診療支援システム

・遠隔画像診断装置システム
(放射線専門医による読影支援)

・電子カルテ(NEC製 MIRA I)
ナース物語(看護記録)
リハスタ(リハビリ記録)
PACS(画像保存通信システム)

・医薬品支援管理システム
服薬指導システム
自動発注・分包・在庫管理システム



4 職員配置

◆理事長 荒木 攻 (あらき おさむ)

昭和44年 広島大学医学部卒 医学博士
脳神経外科専門医
日本脳卒中学会専門医

◆院長 沖 修一 (おき しゅういち)

昭和48年 広島大学医学部卒 医学博士
脳神経外科専門医
日本救急医学会専門医
日本脳卒中学会専門医

◆副院長 鯉川 哲二 (いながわ てつじ)

昭和42年 広島大学医学部卒 医学博士
脳神経外科専門医
日本脳卒中学会専門医

◆総職員数 201名

医師 26名 (常勤 8名 非常勤18名)

看護師 70名 看護補助者 7名

理学療法士 18名 作業療法士 17名

言語聴覚士 9名 管理栄養士 2名

診療放射線技師 7名

臨床工学技士 2名 臨床検査技師 3名

歯科衛生士 1名 医療秘書 3名

診療録管理士 2名 社会福祉士 4名

5 主な施設基準

◆DPC係数 [1.1682]

調整係数 : 0.9965

機能評価係数Ⅰ : 0.1407

機能評価係数Ⅱ : 0.0310

◆脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)

◆総合評価加算

◆看護配置

7対1 入院基本料

75対1 急性期看護補助体制

◆医療秘書

50対1 医師事務作業補助体制加算

◆栄養サポートチーム加算



地域とともに、
明日のために。

6 診療統計

◆患者数

外来(1日平均) 88.3名
入院(1日平均) 89.3名(稼働率 81.2%)
平均在院日数 15.1日

◆救急 (H22.9まで1年間)

救急車搬送数 1,581件



◆検査 (H22.9まで1年間)

MRI 5,862件
CT 6,259件
脳ドック 294件

◆脳神経外科手術実績

過去3年間分

単位：(件)	平成19年度	平成20年度	平成21年度
脳腫瘍摘出術	1	1	2
脳動脈瘤頸部クリッピング	2	4	9
脳血管内手術	18	22	16
頭蓋外頭蓋内バイパス術	6	1	0
頭蓋内血腫除去術	16	19	15
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	28	39	27
水頭症手術	3	13	8
その他	15	21	47
脳神経外科手術 総件数	93	116	124



当院 2階の案内版
2階病床 21床
動線短く急性期に特化

7 DPC新係数 《県内第2位》

平成22年7月に厚生労働省は、DPC導入病院の「機能評価係数Ⅱ」という新係数のうち「地域医療係数」を発表しました。

その集計では当院は、全国 1390導入病院のうち第 66 位、広島県内では 33導入病院のうち第 2 位という高い評価を受けております。

この新係数をご存知の通り係数値が大きいほど高度な医療機能を有していると認められると言われており、今後も更なる医療機能の向上に努めて参ります。

広島県内の上位 5病院のリスト

1. 広島市民病院
2. 荒木脳神経外科病院
3. 広島大学病院
4. 呉医療センター
5. 尾道市民病院

国公立の大病院ばかりの中、医療機能は決して規模でないことが証明されています。

小粒でもキラリと光る病院を目指します。

救急医療係数は0.0124。
この係数は全国トップ。
「救急病院の証」であり
断らない救急を目指します。

8 医療秘書

近年、病院勤務医の長時間労働が社会問題となっており、深刻な医師不足にさらされています。

医師は本来の業務である医療行為以外に診断書の文書作成等を始めとする煩雑な事務業務も行っていることはご存じの通りです。

そこで、医師が本来業務である医療行為に専念してもらうために事務作業をサポートし秘書業務を行う医療秘書課(ドクターズクラーク)を平成22年6月に創設しました。



現在は 3名で運営しておりますが、近々に増員を計画し体制の充実を目指しております。

医師は負担が軽くなった分、患者様と接する時間がより長く持てるようになって来ました。

医療秘書は「医療現場の質の向上」に貢献する業務として、当院では重要業務として位置づけております。



病院らしくない病院
赤レンガをふんだんに使った
優しい雰囲気を出しています

荒木脳神経外科病院

〒733-0821

広島市西区庚午北二丁目8番7号
(庚午北二丁目バス停前)

電話 082(272)1114

FAX 082(272)7048

Email: matsuma@arakihp.jp

連絡先:

事務部長 松下督克(まさよし)

すべては患者さまのために
Client Oriented

www.arakihp.jp

ホームページもご覧下さい



病院全景
広島市西部地区唯一
脳卒中 地域中核病院

9 勤務状況（オフはリフレッシュ！）

- ◆勤務時間 9:00 ~ 18:00
- ◆夜間当直 18:00 ~ 翌9:00 (週1回程)
- ◆休日・休暇 4週8休+7日間連続休暇
《年間休日数120日程度》

※忙しいだけでないメリハリが利いた勤務体制を確立しています。

- ◆学会補助 年2回まで(宿泊・交通費等)

- ◆福利厚生

★医師専用マンション (高須ハイム)



4LDK+ 倉庫+ 駐車場
月額 30,000円
ご家族・単身でも利用可能です。
当院より徒歩5分。
近隣は閑静な住宅街。



★クルーザー

(ヴィーナスII号)

ヤマハS F31フィート

釣り・瀬戸内の島めぐり

職員は 300円/回で自由に利用できます。



★各種レクリエーション

カーブ観戦
職員旅行(国内・海外)
ソフトボール 他

活発に活動してます！

10 当院医師からのメッセージ

臨床・教育ともに充実

オンオフのバランスも魅力



脳神経外科医師

医長 谷 到

脳神経外科専門医

当院は脳疾患全般の臨床が学べ、お歴々の先生方の存在もあり沢山のことが学べ教えていただけること、さらに広島大学と連携が取れておりバックアップ体制が充実すること等が特徴と言えます。

クモ膜下出血の論文で有名な鱒川先生を始め諸先輩方の存在はありがたい限りです。

また当院に少ない症例を補完したい、最先端の知識を学びたいと思えば広島大学の医局の先生方を通じて習得も可能です。

実際、私ごと、大学の連携支援をいただき

ながら当院で勤務しながら専門医の取得ができました。

さらに勉強がしたければ病院をあげて支援してくれる風土・文化があります。小規模病院でここまで臨床・教育及び研究が充実している病院は他にないと思います。

そして何より仕事とプライベートにおけるバランスの良さも感じております。

救急病院である以上、一睡もできない日もありますが、うちにはメリハリが利いた職場環境があります。昨年を勘算してみると約120日程度は休日を取得していました。気付くと10年以上勤務しています。

これからは医療秘書を有効利用し効率的な診療を志し、さらにスキルアップしたいと思っております。

もっと経験をつみたい、手術をしたい等、向上心を持ちつつ、楽しく有意義な人生を送りたい先生方、一緒に働きましょう。